



今年も若葉を繁らせる「サイカチの木」



石塔の脇に立つ道祖神の石碑

本柳の道祖神は「やわたみち」の標識を兼ねているものが多い。道祖神の祭日は、小正月の1月15日と2月8日の初午の馬引きをあげる地区がほどんどである。どんどん焼きは道祖神のある所でも行われてき

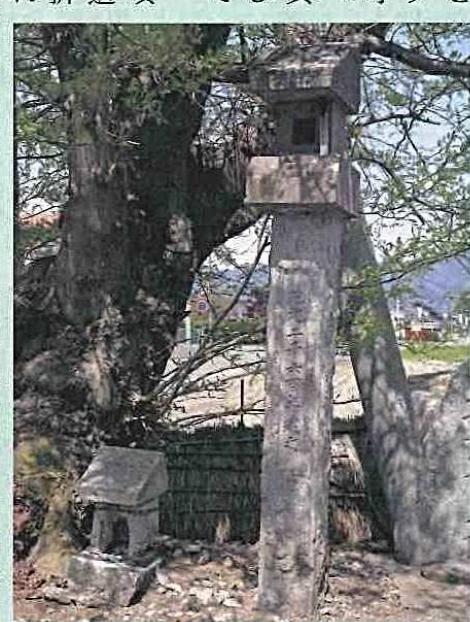
たが、今では小学校の庭などでも行われている。
参考文献
『戸倉町誌第一巻』
(自然編・民俗編)
『千本柳の来し方記』
戸倉公民館長 竹内正一著

五加線から千本柳区荒屋分区への道路の分岐点に道祖神があり、ここにサイカチの老木が立っている。幹は北に傾き上部は枯れ落ち、胴部も半分ほど裂けてなく、芯が出ている。残った側からも外皮が芯を包み込むように盛り上がり、さらにこぶ状に肥大化した箇所もある。幾本かの太い枝がでており、葉を繁らせて丸く樹幹をつくっている。

大きな豆のさやをつけ、秋に葉が落ちてからも、しばらぐ茶褐色の実をぶら下げている。また、幹からは枝の変わった鋭い刺がでており、区民

はこの木を「サイカチバラ」と呼んでいる。かつては真直ぐに伸びた大木であつたが、明治の中頃に落雷に遭い、幹が折れたと語り継がれている。サイカチは水辺を好む。この木も落雷には遭つたが、道祖神の横を流れる用水の傍らに立ち、神木として守られるなど好条件で生育してきた。ところが、近年になり用水

脇には秋葉社の石塔がある。千本柳には、他に黒彦神社・甲組作業所及び北組に建つてある。いずれも3尺もある石の上に権現造りの小さなお社が載つてい



サイカチの木と秋葉社石塔

路がコンクリートの側溝となつた。道路はアスファルトで固められ、その度に掘り返されれて根が切られた。また、上に張られた電線に触れるからと枝が切られるなどさんざん痛めつけられて、幹も傾き樹勢も衰えが目立ってきた。神木としては珍しいこのサイカチを永く残したいものである。

秋葉講は春と秋の2回、日待といつて社殿に紫の幕が張り巡らされ、幟が建てられたという。その夜は講中一同が当番の家に集まり、手料理で酒食を共にし、一夜歓談している。

親交を深めたという。今も日待の日には当番が幟を立てて

もっと知りたい ふるさと

56

荒屋道祖神とサイカチ

※「もっと知りたいふるさと」のバックナンバーは千曲市ホームページをご覧になれます。

